

2026年度久留米大学学校推薦型選抜（公募）A日程『出題の意図』
経済学部

日 程	11 月 22 日	科目名	小論文	問題番号	
米は日本における重要な食糧の1つである。2024年から2025年にかけて発生した「令和の米騒動」を契機として、米作や供給のあり方について様々な議論が看取される。 米作とそれに付随する供給システムは、戦後日本における政策方針や食の外部化といった問題、あるいは貿易の自由化といった対外的な問題に対応する形で変容していった。この変化とともに、中山間地域をはじめとする農村では「限界集落」に代表されるように農村としての機能維持が困難な時代に直面していった。 かかる状況に対して、食料安全保障や国土保全などをはじめとする農村の多面的機能が次第に評価される中で、日本の米作農家をどのように遇するのが社会的な課題といえる。 以上から明らかなように、日本の米作をめぐる今日的な問題とその歴史的背景を問うことは、経済学部のアドミッションポリシーである「経済社会の構造を理解する知的能力」とともに、「グローバルな視野をもつ経済人を目指す強い意志」と「環境に配慮した地域作りへの深い関心」を測る上で適切な題材であるといえる。そこで、今年度は吉見俊哉『ポスト戦後社会：シリーズ日本近現代史⑨』（岩波書店、2009年）と伊庭治彦「米作と「社会的適正米価」：外部性と農村社会の持続」『現代思想』、2025年9月号、(2025年)、38-48ページの内容をから出題した。 問1は、基本的な語彙力を確認する問題である。問2と問3は、現実の社会に関する事項に関心を持ち、その内容を適切な形で表現できるかを問う問題である。問4は、文章全体を適切に理解し、過不足ない形で要約できるかどうかを問うた問題である。問5は資料1と資料2の内容に基づいて問題を総合して、自らの意見を説得的に表現できる能力を試す問題である。					